

映画「遙かな町へ」舞台の倉吉に活気



映画「遙かな町へ」

舞台の倉吉に活気

倉吉市が映画で活気づいています。同市を舞台にした漫画『遙かな町へ』の実写版映画の撮影が8月から始まり、豪華俳優陣がロケに臨んでいます。白壁土蔵群を中心とした撮影現場は作品の時代に合わせ「昭和」の雰囲気に一変。映画化効果で原作漫画への関心も高まっています。



白壁土蔵群内で行われた、映画『遙かな町へ』の撮影風景

原作に関心高まる

市立図書館
専用コーナー

『遙かな町へ』は、鳥取

きます。

市出身の漫画家、故・谷口

主役の大人の博史役に大

ジローさんが1998年に
谷亮平さん(44)、博史の両

漫畫雑誌に連載した作品
ふるさとの倉吉に帰省中、
で、48歳の主人公、博史が
藤賢一さん(48)と、テレビ

1998(平成10)年から
1963(昭和38)年にタ
イムスリップし、中学2年
生の生活を追体験する物語
です。大人の目線を通して
接する友人やマドンナとの
交友、自身と同い年となる
父親との人間関係を通じ
て、人生を見つめ直してい
めます。



倉吉市立図書館内に設けられた、
『遙かな町へ』特設コーナー

同作の映画化決定を受

昭和の町並みを再現する

川沿いではアスファルトを

はがして砂の道路に戻す工

事が行われたほか、各現場

には木製の電柱や昭和中期

まで活躍したオート二輪と

呼ばれるトラック、ポンネ

ンネットバスが登場。周辺

はまるで昭和38年にタイム

スリップしたかのような雰

囲気に包まれました。

多くの市民が博史の同級

生や通行人役として作品づ

くりに協力しており、10

0人以上が出演した本町

倉吉での撮影は9月下旬

旬まで行われ、来年秋の

全国公開を予定していま

す。作品は海外の主要な映

画祭にも出品される予定

で、錦織監督は「倉吉から

日本的心を発信したい」と

意気込みを話しました。

(井田慎一)

映画『遙かな町へ』 日本海新聞 (2025.9.21_13面掲載)